

1 単元について

対 象 学 年	中学校 第3学年
学 習 指 導 要 領	公民的分野の内容(3)エ
単 元 名	国際問題と地球市民 (全6時間)
単 元 目 標	<p>環境問題について関心をもち、地球規模での努力や国際協力が必要であることをNGOの活動を通して理解し、住みよい地球を守るために取り組みを続けていこうとする気持ちができる。</p> <p>(社会的事象への関心・意欲・態度)</p> <p>地球に住む一人として、和田さんの様々な活動を通して、現地の人が望んでいる活動を共に考え歩むことの大切さが分かり、今後の自分たちの在り方を考えることができる。</p> <p>(社会的な思考・判断)</p> <p>NGO法人「ソムニード」の活動に関心をもち、ハンドブックや写真、資料、和田さんの話など様々な資料を活用して、自分の考えをまとめ適切に表現することができる。</p> <p>(資料活用の技能・表現)</p> <p>NGO法人「ソムニード」の活動から地球が抱えている環境問題を知り、日本も無関係でないことを理解することができる。</p> <p>(社会的事象についての知識・理解)</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追求する社会的事象について、生徒がより具体的に学ぶことができるように身近な人物を取り上げ教材化した。 ・指導計画は、生徒の実態や、生徒の意識の流れに十分に配慮し、生徒の側に学ぶ必然性が生まれるようにした。 ・世界の経済格差をつかませるために、発展途上国の人口爆発や貧困の様子等の南北問題を位置付けた。 ・日本の発展途上国への支援が分かるように、ODAの支援の様子を位置付けた。 ・環境問題について、適切な課題を設けて行う学習を位置付けた。 <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心をひきつけるために、天ぷらうどんを取り上げ、私たちの食事も、原料はその多くを海外に依存していることを考えさせた。 ・世界の経済格差をつかませるために、人口問題や貧困などの南北問題についての資料を用意した。 ・和田さんの言葉や写真を資料として提示し、新しい見方や考え方に気付かせる展開を工夫した。
参 考 資 料	<p>資料 1 : 第1時 「天ぷらうどんに関する資料」</p> <p>資料 2 : 「インドの有頭えびに関する資料」</p> <p>資料 3 : 第2時 「飽食と貧困の様子が分かる資料」</p> <p>資料 4 : 「ODAの協力に関する資料」</p> <p>資料 5 : 第3時 「日本のODAへの批判の資料」</p> <p>資料 6 : 「日本のODAの建設に関する資料」</p> <p>資料 7 : 「和田さんの写真」</p> <p>資料 8 : 第4時 「和田さんの歩み」</p> <p>資料 9 : 「インドの生活の様子に関する資料」</p> <p>資料 10 : 「インドでのソムニードの活動ビデオ資料」</p> <p>資料 11 : 「ソムニードの事業に関する資料」</p> <p>資料 12 : 「ソムニードの植林方法に関する資料」</p> <p>資料 13 : 第5時 「和田さんの言葉の資料」</p> <p>資料 14 : 「和田さんが現地で活動している写真資料」</p>

2 単元の評価規準

	ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・ 判断	ウ 資料活用の技能 ・表現	エ 社会的事象につ いての知識・理解
内容 のご ま と の ま 評 り 価 規 準	国際社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度が育つと共に、これからのよりよい社会を築くために解決すべき諸課題を考え続けようとする態度が育っている。	国際社会の諸問題から課題を見だし、世界平和の実現と人類の福祉の増大について、多面的・多角的に考察し、これからのよりよい社会の在り方について、様々な観点や立場から公正に判断している。	国際社会の諸問題に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用すると共に、課題を追求し考察した過程や結果を、図表化したり報告書にまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。	世界平和の実現と人類の福祉の増大に関わって、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国国民の相互理解と協力の大切さについて認識し、日本国憲法の平和主義について理解を深めると共に、現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について理解し、その知識を身に付けている。
単 元 の 評 価 規 準	和田さんの生き方を意欲的に調べることを通して、地球的な環境問題について関心をもち、住みよい地球を守るために取り組みを続けていこうとする気持ちももてる。	和田さんがソムニードを立ち上げて、インドで植林活動などを続ける姿を通して、現地の人々が望んでいることをするたりためには、現地の人と共に考え歩んでいくことの大切さが多面的・多角的にとらえられている。	NGO法人「ソムニード」の活動のハンドブックや写真、資料、和田さんの話など様々な資料から、課題に迫る資料を収集し、自分の考えをまとめ適切に表現することができる。	NGO法人「ソムニード」の活動から地球が抱えている環境問題を知り、地球で起きている環境問題に対して、現在どんな取り組みがなされているのか理解できる。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	外国からの輸入によって日本人の食が保たれていることに関心をもち、自分たちの生活と世界の国々との関係に目を向けている。 高山にあるNGO「ソムニード」の和田さんの活動に関心をもち、NGOで活動する和田さんやソムニードの方の様子を知り、活動を行う大変さからその気持ちや生き方に関心をもちている。	世界の国々には、貧しさのため、苦しい生活をしている人がいることを知ると共に、日本が果たしている役割について考えている。 話し合いや和田さんの話をもとに、援助してあげるといふ見方や考え方だけではなく、現地の人たちの望んでいることを、共に考え歩んでいくことが大切であるという見方をしている。 環境問題について考え、地球環境を守っていくために自分なりにできることはないか考えている。	写真や資料から、日本の支援状況などの活動内容を具体的に調べ、支援金額や支援内容についてまとめている。 環境問題について多くの資料から、学習に役立つ資料を適切に選択し、自分なりの考えを交えて分かりやすくまとめている。	世界とのかかわりがなければ私たちの生活が成り立たないことを理解している。 私たちが住んでいる地球には、貧困に苦しむ人々があり、日本としてもODA（政府開発援助）やNGO（非政府組織）などで様々な援助をしていることを理解している。

3 指導と評価の計画（全6時間）

(1) 授業の流れ

- 第1次 日本と世界との関わり … (3時間)
- 第2次 インドで活動をする和田さんを通して … (2時間)
- 第3次 地球の環境問題 … (1時間)

(2) 単元指導計画

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	海外との関わりがあつてこそ、生活できている背景をつかむとともに、インドの環境問題に、私たち日本人も関係していることが分かる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">私たちの生活は、世界とどのようにつながっているのだろうか。</div> <p>天ぷらうどんを提示する。 多くの食材が海外からの輸入であることを知る。</p> <p>「世界一のえび消費国日本」の資料を提示する</p> <p>えびを日本に輸出しているインドの現状 (インドの有頭えびの資料を提示)</p> <p>この有頭えびを輸入している国は日本であることを知る。</p> <p>単元を貫く課題 「同じ地球に住む一人として何ができるのだろうか。」と設定する。</p>	<p><アー > 外国からの輸入によって日本人の食が保たれていることに関心を持ち、自分たちの生活と世界の国々との関係に目を向けている。</p> <p><エー > 世界との関わりがなければ日本は生活していくことができないことを理解している。</p>	<p>発言 ・食材が海外からの輸入であることを知った上で、今の日本の現状が海外とのつながりなしでは、成り立たない見方ができているか。</p> <p>学習ノート ・輸出により生活に苦しむ現地の人たちと、日本も無関係ではないことを理解しているか。</p>	<p>海外からの輸入に頼るところが大きいことを理解させるために、日本食というイメージが強い天ぷらうどんを取り上げる。</p> <p>インドのえびを取り上げて、現地の人々が苦しんでいる様子をつかませる。</p>
2	世界経済が大きな格差を抱えている背景をつかむと共に、世界では様々な形で国際協力が行われていることが分かる。	<p>世界の人口と食糧の資料を提示。 飽食の様子の写真と貧困の様子の写真を提示。 感想発表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">同じ地球に住んでいるのにこんなにも貧しく生活に苦しんでいる人々がいるのはどうしてか。</div> <p>貧困を生み出している背景を探る。</p> <p>さかんに行われる援助。</p> <p>政府及びNGOによる協力援助の全体像をつかむ。</p>	<p><イー > 世界の国々には、貧しさのため、苦しい生活をしている人がいることを知ると共に、日本が果たしている役割について考えている。</p> <p><エー > 私たちが住んでいる地球には、貧困に苦しむ人々がお</p>	<p>発言 ・世界には、貧困に苦しむ人が多いことを理解し、日本と世界を比較し、どうしてこのような貧困さが生まれたのかという見方ができているか。</p> <p>学習ノート ・貧困に苦しんでいる人々を日本もODAやN</p>	<p>飽食と貧困の資料から貧困に苦しむ人が多いことをつかませ、同じ地球に住んでいる一人として考えさせる。</p> <p>貧困に苦しんでいる人たちに対して、NGO</p>

			り、日本としてもODA（政府開発援助）やNGO（非政府組織）などで様々な援助をしていることを理解している。	GOという形で援助しているという実態を理解しているか。	やODAの活動が分かる資料を提示し、日本が果たしている役割を考えさせる
3	<p>政府による援助の現実をもとに、国際協力が金や物だけではなく、人や技術による援助も盛んに行われていることが分かる。</p>	<p>日本の経済援助とODA ・日本は世界の中で一番多くのお金を援助している。 日本のODAへの批判</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発展途上国への資金援助額が世界一の日本が、こんなにも非難されなくてはならないのはどうしてだろうか。</p> </div> <p>貧困層には届かない日本の援助</p> <p>NGOの代表としてインドで活動してみえる和田さんを紹介する。</p>	<p><ウー > 写真や資料から、日本の支援状況などの活動内容を具体的に調べ、まとめている。</p> <p><アー > 高山にあるNGO「ソムニード」の和田さんの活動に関心をもつことができる。</p>	<p>学習ノート ・資料から、ODAの資金援助が、現地の人のためになっていないことを読み取っているか</p> <p>学習ノート ・和田さんについて「どんな人物なのか知りたい」など感想に書いているか。</p>	<p>日本のODAへの批判の資料から、資金援助が現地の人役に立っていないことを具体的にとらえさせる。</p> <p>小中学校でも交流している和田さんの写真を提示し、活動について確認する。</p>
4	<p>ソムニードを立ち上げた和田さんの歩みを理解することで、和田さんの生き方に興味をもつことができる。</p>	<p>NGO「ソムニード」で植林活動をする和田信明さん</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>NGOの代表として、インドで活動してみえる和田さんは、どのように国際協力に関わってきたのだろうか。</p> </div> <p>和田さんの歩み。 NGO「ソムニード」としてインドで植林活動してみえる和田信明さんの歩みを見る。</p> <p>インドの生活状況や森林の現状を知る。</p> <p>感想 ・10年間もインドで活動してみえた和田さんは素晴ら</p>	<p><アー > NGOで活動する和田さん</p>	<p>学習ノート ・歩みをもとに、和田さ</p>	<p>和田さんの活動の歩みからこれまでをつかませる。</p> <p>インドの生活状況や森林の現状の様子をビデオや資料からつかませる。</p> <p>和田さんの活動を、資</p>

		<p>しい。援助してあげるとは、大切なことだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和田さんはどうして10年間も続けることができたんだろうか。自分だったらできないと思う。 	<p>やソムニードの方の様子を知り、活動を行う大変さから、その気持ちや生き方に興味を持つことができる。</p>	<p>んが10年間も活動をし続けてみえたことを事実や自分の思いを交えながら書いているか。</p>	<p>料から確認し、どうして、こんな大変な活動を10年間も続けることができたのか考えさせる。</p>
5 本時	<p>和田さんがソムニードを立ち上げて、インドで植林活動などを続ける姿を通して、現地の人々が望んでいることをするために、現地の人と共に考え歩いていくことの大切さが分かり、自分も地球に住む一人としての自覚をもつことができる。</p>	<p>インドでの植林活動などを続ける和田さんの具体的な活動の様子を見せ、課題をより明確化し、各自の考えの発表に入る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>和田さんが10年間もインドで様々な活動をしてきたのはどうしてだろうか。</p> </div> <p>(インドの現状から)</p> <p>(和田さんのやりがいから)</p> <p>和田さんの思いに迫る。</p> <p>和田さんの現地での活動写真を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和田さんの笑顔から、現地の人と共に歩いていくことが大切だと教えられた。 	<p><イー> 話し合いや和田さんの話をもとに、地球に住む一人として、援助してあげるといふ見方や考え方だけではなく、現地の人たちの望んでいることを共に考え歩いていくことが大切であるという見方をしている。</p>	<p>発言 学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助してやるとかいった考えではなく、同じ地球に住む一人として現地の人々の望むことを共に考え歩いていくことが大切だという見方や考え方か。 	<p>課題に対する各自の考えをノートに書かせる</p> <p>発表を観点別に板書することで生徒の発言を位置づけさらにつなげて考えるように援助する。</p> <p>和田さんの言葉や写真から、和田さんの願いをつかませる。</p>
6	<p>地球の環境問題を調べる中で、同じ地球に住む一人として環境問題をとらえ、自分にできることはなにか考えることができる。</p>	<p>前時学習した和田さんの思いを確認し、同じ地球に住む一人として地球上でおきている環境問題を調べていくことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>同じ地球に住む一人として地球上で起きている環境問題について自分は何ができるのだろうか。</p> </div> <p>以下の環境問題から一つを選び、課題追求学習をする</p>	<p><ウー> 環境問題につ</p>	<p>学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ 	<p>課題追求学習をさせる。</p> <p>資料の読み</p>

	と共に対策を考える。 資源・エネルギー問題 森林問題 砂漠化 地球温暖化	いて、多くの資料から自分の課題に合った資料を収集し、自分なりの考えを交えながらまとめている。	たい環境問題を、資料から読み取りノートにまとめているか。	取りがでない生徒には、机間指導をすることで、考えるヒントを与え考えさせる。
	意見交流	<イー> 環境問題について考え、地球環境を守っていくために、自分なりにできることはないか考えている。	学習ノート ・学習してきたことを思い出しながら書いていたり、自分にはできないかという見方や考え方で書けているか。	今まで学習してきたことを思い出しなが書いていたり、自分にはできないか考えている生徒を認め広める。

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・和田さんがソムニードを立ち上げて、インドで植林活動などを続ける姿を通して、現地の人々が望んでいる援助をするためには、現地の人とともに歩いていくことの大切さが分かり、自分も地球に住む一人としての自覚をもつことができる。

(2) 本時の位置

5 / 6時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つかむ	インドでの植林活動などを続ける和田さんの具体的な活動の様子を見せ、課題をより明確化し、各自の考えの発表に入る。		
追究する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>和田さんが10年間もインドで様々な活動をしてきたのはどうしてだろうか。</p> </div> <p>調べたことをもとに和田さんの思いや願いについて話し合う。 (インドの人の現状から) ・現地の人々は、とても食糧に苦しい生活をしている。毎日、食べ物が無い生活をしていることがわかるので、そういう人たちの生活を楽にしてあげたいと願ってみえるから。 ・私たちと同じ年代の女の子が毎日20キロの水を運ぶのはかわいそうだし、少しでも水が豊かになるように願ってみえるから ・電気がない生活をしていること</p>	<p><イー> 話し合いや和田さんの話をもとに、地球に住む同じ一員として、援助してあげるという見方や考え方だけではなく、現地の人たちの望んでいる援助を、ともに考え歩いていくことが大切であるという見方をしている。</p> <p>発言 ・援助してやるとかそういった考え方ではなく、同じ地球に住む一人として現地の人の望む援助をす</p>	<p>課題に対して、インドの現状からという見方や和田さんのやりがいという見方を、生徒の意見から板書に位置付ける。</p>

深める

- が分かるので、その人たちのためにミニ水力発電所をつくり生活を楽しませてあげたいから。
- ・水がないということは生きていく上では、非常に苦しく大変なことであるから。
- (和田さんのやりがいから)
- ・はげ山だったところに緑が徐々に戻ってくるのがうれしかったから。
 - ・木に実がつくことによって食料がとれるようになったから。
 - ・ミニ水力発電をつくることによって、電気がおこり、暮らしが少しずつよくなってきているのが分かるから。
 - ・現地の人々の喜ぶ顔が多くみられるから。
 - ・自分の行っている活動が、現地の人の中で広まっていくから。

和田さんの、「現地の人の方がよりよい生活ができるように、ともに考え歩んでいきたい」という思いに迫る。

- ・自分の思いだけで活動することは、現地の人のためになってはいない。現地の人とともに考えていくことが大切だということに気がついた。
 - ・植林活動をしていくことで、自分の喜びにはなっても、相手の喜びにはつながっていないことが分かった。現地の人とたくさん話をしてお互いが理解をした上で、活動していくことが大切だということが分かった。
 - ・現地の人々が苗木を引っっこ抜いていくことはとてもショックだったと思う。それでも活動し続けた和田さんはすごい。そこまで、現地の人たちのことを考えていたからこそ、10年間も活動できたんだと思う。
- 和田さんの現地での活動写真を提示することによって、自分自身を振り返る。
- ・和田さんの笑顔から、現地の人とともに歩んでいくことが大切だと教えられた。
 - ・何かをしてやろうかという自分勝手なものでは、この笑顔はないと思う。同じ考えで歩んでいくことが大切だと語っている。
 - ・和田さんがこれだけ楽しそうなのは、援助してやるというような上の立場で考えていないからだと思う。自分にも何かできないか考えていきたい。

まとめる

ることが大切だという見方や考え方ができているか分析する。

<イー >

話し合いや和田さんの話をもとに、地球に住む同一員として、援助してあげるという見方や考え方だけではなく、現地の人たちの望んでいる援助を、ともに考え歩んでいくことが大切であるという見方をしている。

学習ノート

仲間の発言をもとに、和田さんの願いに迫ることができている。

和田さんの願いが分かるように、和田さんの言葉や写真を効果的に使う。

感想をもつことができない生徒には、言葉や写真に着目し和田さんの思いから考えた仲間の意見を再確認する。

5 . 評価の実際と個に応じた指導事例

本時の評価と、個に応じた指導の事例を以下のようにまとめた。

「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例、及び「努力を要する」状況（C）と判断した生徒がいる場合の指導の指導の具体的な手だてを示している。

授業展開の中で、「学習活動における具体の評価規準」に照らして、個の学習状況を把握することに努める。その際、「努力を要する」状況と判断した生徒に対して、学習状況に応じた指導の手だてを講じて、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。それとあわせて、「十分満足できる」状況と判断できる生徒の姿が実現されることをめざして、指導・援助に努めていく。

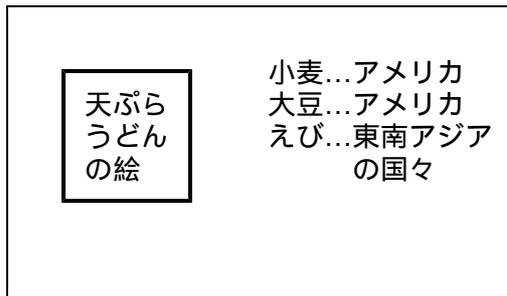
本時の事例（5 / 6時）の事例

【社会的な思考・判断】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手だて
<p>< イー > 話し合いや和田さんの話をもとに、地球に住む一人として、援助してあげるとい見方や考え方だけではなく、現地の人たちの望んでいることを共に考え歩んでいくことが大切であるという見方をしている。</p>	<p>発言の内容やノートへの記述の分析から地球に住む同じ一人として、援助してあげるとい見方や考え方だけではなく、現地の人たちの望んでいることを、共に考え歩んでいくことが大切であるという見方に変容し、さらに、自分の生活を振り返って、自分にもできることはないか考えようとする見方をしている。</p> <p>具体例 ・和田さんがこれだけいい顔をしてみえるのは、援助してやるというような立場で考えていないからだと思う。自分にもできることはないか、考えていきたい。</p>	<p>学習課題に対して、インドの人の立場や和田さんの立場で、この10年間を考えてみるように示唆する。</p> <p>和田さんの思いが「してあげる。」という考え方から「現地の人たちが望んでいることを共に考え歩んでいく」という考え方に変わったことに気付いた生徒を、ノートの記述からみつけ、全体に広めることによって、自分にはなかった見方に気付かせる。</p> <p>円座になって話し合っている写真から、現地の人たちのまなざし、それに、にこやかに接する和田さんの表情に着目させどう語っているのか予想させる。</p>

6 参考資料

資料 1



資料 2



東京書籍 3年公民教科書より



近くて遠い国
アジアを考える本 岩崎書店より



ソムニード資料より



ソムニード資料より

資料3

岐阜県版
技術・家庭科資料集 【明治図書より】

岐阜県版
技術・家庭科資料集 【明治図書より】

救え世界の子どもたち
「日本図書センターより」
【明治図書より】

資料4

国	供与額 (1999年)
日本	153.2億ドル
アメリカ	91.4
フランス	54.9
ドイツ	54.8
スウェーデン	16.4

「国際協力のいま」 【リブレオ出版より】
最新公民資料集【浜島書店より】 たすけあう世界、わたしたちにできること

資料5



近くて遠い国
アジアを考える本 【岩崎書店より】

資料6



近くて遠い国
アジアを考える本 【岩崎書店より】

資料7



和田さんの写真

資料8

和田さんの歩み

1950年8月5日 東京都生まれ

フランス国立ストラスブール大学
社会学科留学

1983年 フィリピン情報センター名古屋
設立に参加

その後 飛騨国際工芸学園教授に就任

1993年 「サンガムの会」設立

資料9



ソムニード資料より

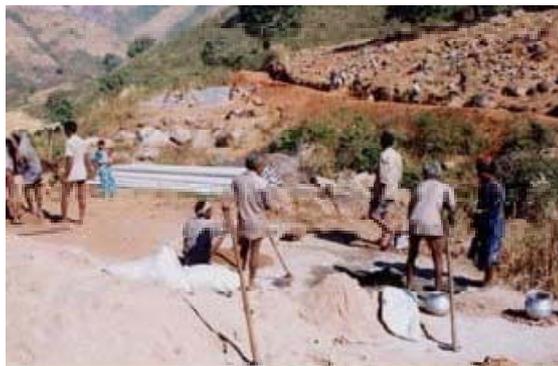


ソムニード資料より

資料10

インドでのソムニードの活動ビデオ
(5分)

資料11



ソムニード資料より

資料 1 2



用途	樹木の名前	植える標準の本数
果樹	1 マンゴー	21
	2 カシユナツツ	16
	8 ヲババ	数本程度
	11 ジャックフルーツ	数本程度
	15 カスタードアップル	数本程度
材木	3 チーク	100
	7 チャラグンミディ	20
	9 エギサ	8
	11 ジャックフルーツ	数本程度
	12 マツディ	8
	13 ネーラディ	4
雑用	10 バンブー	4
	5 カジュアリーナ	84
家	4 ユーカリ	84
	15 アカシア	48 (コード番号15で分類される樹木全体で)
	15 スパプル	48 (コード番号15で分類される樹木全体で)
全体の標準の本数		400 本程度

ソムニード資料より

資料 1 3

和田さんの言葉

和田さんの
写真

資料 1 4



ソムニード資料より